

2022年度化学物質環境実態調査結果 地域別データ

調査名：初期環境調査

調査媒体：水質（ng/L）

地方公共団体：川崎市

調査地点：多摩川河口（川崎市）

調査対象物質	測定値	報告時 検出下限値	検出下限値
	検体1		
[1] アトルバスタチン	※1.3	0.89	1.4
[3] ジエチルアミン	nd	50	50
[4] 4,4'-ジヒドロキシジフェニルメタン（別名：ビスフェノールF）	nd	8.8	8.8
[5] 1,3-ジフェニルグアニジン	26	5.0	5.0
[6] 4,4'-スルホニルジフェノール（別名：ビスフェノールS）	15	1.4	1.4
[7] 2,5,8,11-テトラオキサドデカン（別名：トリエチレングリコールジメチルエーテル）	nd	280	620
[9] 4,4'-[2,2,2-トリフルオロ-1-(トリフルオロメチル)エチリデン]ビスフェノール（別名：ビスフェノールAF）	nd	0.38	0.38
[10] 3,5,5-トリメチル-1-ヘキサノール	nd	200	420
[11] 1,2-ビス(2-クロロフェニル)ヒドラジン	nd	1.3	1.8
[12] フラン	nd	22	38
[13] 2-メルカプトベンゾチアゾール（別名：1,3-ベンゾチアゾール-2-チオール）	nd	4.1	4.1

(注1) nd：不検出

(注2) ※：参考値（調査対象物質ごとに統一して設定した「検出下限値」未満ではあるが、各地点ごとの調査精度に依存する「報告時検出下限値」以上として定量的に検出された値である。）